

「コレクション拝見に背中を押されて」 ～エジプト切手（一番切手から王政廃止まで）～

塩田 泰弘

私の悪い癖で、集めた切手をなかなかアルバムに整理しない。そこで例会の「コレクション拝見」の力を借りることになる。「コレクション拝見」に立候補すると、嫌でも担当の月までにはアルバムに整理しなければならない。前回の「BONSAI切手」に続いて今回は「エジプト切手（一番切手から王政廃止まで）」である。

エジプト切手の収集は、十数年前に家内がエジプト旅行のお土産に買ってきていたのが始まりである。比較的安価なものが多いので、即売会の機会を利用するなどして集め始めた。集めていて気が付いたのであるが、エジプト切手は、切手が持つプロパガンダの側面をよく現したものが多い。王政の時代は特にそうである。

エジプトはアラブの大國としての自負を持ちながら、アジアとヨーロッパを結ぶ交通・交易の要衝にあり、第二次世界大戦後はイスラエルに隣接しているという地政学上の位置から常にヨーロッパの強国の干渉に会い、苦しんだ歴史がある。これが切手によくあらわれているのである。そこでエジプト切手に、エジプトの近現代の歴史を語らせることができるのではないかと考えたのである。このためには、エジプト切手のみならず、周辺のアラブ諸国、イスラエル、さらにはヨーロッパ諸国の関連する切手を集め、その意匠、発行の目的・背景などを調べなければならない。かなりの手間と時間を要する。しかし、収集の現状は、切手の量も質も十分とは程遠いし、意匠等の調査は不十分で、目標は遙か彼方である。

このため、今回はエジプト切手のうち一番切手から王政廃止までに絞り、取りあえず発行順に整理し、例会のコレクション拝見に間に合わせたが、次のステップの準備を兼ねて、調べた切手の発行の目的・背景などを書き込んだ。整理してみると、発行目的等の調査の不十分はもちろんあるが、アルバムの穴ぼこが、特に初期の切手に多いことに気が付いた。高価なものがほとんどで、切手商も入荷がないという。資力にも限界がある以上仕方がないが気にはなる。皆様のご協力をいただいて、充実していかなければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

EGYPT

エジプトの近現代の概要

五千年以上の歴史を誇るエジプトの近現代は激動の時代である。それはオスマン帝国の統治下にあった1798年フランスのナポレオンの侵攻に始まる。しかし、ナポレオンは、イギリス地中海艦隊に敗北する。制海権を掌握したイギリスは、交易の要衝であるエジプトに終始介入し、エジプトはこれに苦しみ続ける。

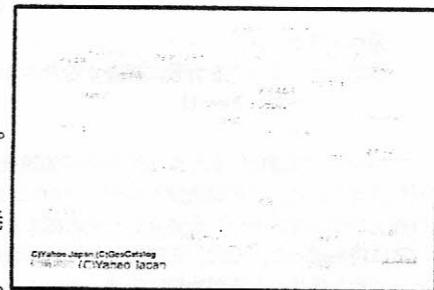
1805年オスマン帝国から自立したエジプト総督は経済、軍事の近代化を進め、広大な地域を版図に收め、独立する勢いであったが、欧州列強の介入に会い、撤退させられた。

1869年スエズ運河が開通するが、エジプトはその財政負担、綿花の価格暴落により財政破綻し、イギリス、フランスの内政干渉に苦しんだ。このため、1881年、民族主義運動が起こったが、イギリスがこれを鎮圧し、エジプトを実質的に支配し、第一次世界大戦が起こると保護国とした。

大戦後、イギリスへの反発が強まり、1922年イギリスがついにエジプトの独立を宣言し、立憲君主国家となった。第二次世界大戦後には、パレスチナ問題、第一次中東戦争の敗北、経済悪化、国王の暴君化などにより社会情勢が悪化し、1953年自由将校団によるエジプト革命が起り、王政廃止、共和制に移行する。

1856年第二代大統領に就任したナセルは、冷戦下での中立外交と汎アラブ主義を柱とする政策を進め、第三世界・アラブ諸国の雄として台頭する。さらにスエズ運河国有化を断行し、第二次中東戦争で政治的に勝利し、1958年シリアとのアラブ連合共和国を成立させたが、第三次中東戦争に敗北し、権威は失墜した。

1970年大統領となったサダトは社会主義的経済政策の転換、イスラエルとの融和策などを推進したが、1981年暗殺された。副大統領から昇格したムバラクは対米協調外交を進め、イスラム主義運動を弾圧するなど独裁的な政権を長期にわたって維持したが、「アラブの春」により崩壊した。



作品の範囲と構成

エジプトの郵便制度導入、切手の発行は1866年である。最初の切手はオスマン帝国のデザインを模したもので、その後はエジプト独自のデザインとなり、現在まで数多く発行されている。今回は、このうち普通・特殊切手について最初の発行から1953年のエジプト革命までの87年間に発行されたものを展示する。

展示の構成は、エジプトの近現代の始まりであるナポレオンの侵攻、イギリス・ネルソン提督のフランス艦隊撃退に関する切手を冒頭に、その後にエジプト発行の普通・特殊切手を発行順に並べ、その時々の政権である「オスマン帝国宗主権時代の切手」、「イギリス保護領時代の切手」、「王政時代の切手」の表題をつけ、最後にエジプト革命による王政廃止にかかる切手を配する。

表題	期間	発行数	主な切手
ナポレオンの遠征	—	(5)	ナポレオンのエジプト遠征 ナイルの海戦
オスマン帝国宗主権時代	1866～1914	59	オスマン帝国デザイン スフィンクスとピラミッド
イギリスの保護領時代	1915～1922	15	料額加刷 名所・旧跡・ラムセスII世像
王政時代	1922～1952	247	フード国王・ファルーク国王肖像 各種国際会議 アングロ・エジプト条約関連、アラブ連盟関連

見どころ

エジプトにおける切手は、時の政治主体のプロパガンダの手段としての側面を色濃く持っている。王政下においては、特にこの傾向が強く、国王の肖像、国王の業績等をデザインとしたものが多く発行されている。この作品は、エジプトの普通・特殊切手を発行順に並べるだけでなく、切手にエジプトの歴史を語らせる側面を持たせるため、当該切手にまつわる歴史的な意義に関する説明を加えた。

EGYPT

ナポレオンのエジプト遠征とナイル（アブキール湾）の海戦

ナポレオンのエジプト遠征

発行：フランス

図案：ピラミッドを背景に探査する考古学者

1972 Nov.11

ナポレオンは遠征にあたり 167 名の学術調査団を同行させていた。この調査団がロゼッタ村において石碑・ロゼッタストーンを発見し、その拓本をフランスに持ち帰った。なお、石碑はイギリスが戦利品として持ち帰り、大英博物館に収蔵している。

1353



ロゼッタストーン解読 150 年

発行：フランス

図案：シャンポリオンの肖像とヒエログリフ

と古代ギリシャ文字とフランス語

1972 Oct.14

ロゼッタストーンにはヒエログリフ、ヒエロ・グリフの簡体字、古代ギリシャ文字が三段に区分して記されていたことなどを手掛けたフランスのシャンポリオンが解読した。これは後のエジプト学に大きく貢献した。

1354



ナイル（アブキール湾）の海戦

発行：ジブラルタル（イギリス領）

図案：ネルソン提督(26p) 旗艦ヴァンガード(35p) ナイルの海戦(50p)

1998.Aug.1

1798年8月、ネルソン提督率いるイギリス艦隊（14隻）が、ナポレオンのエジプト遠征に従軍したフランス艦隊（13隻）を、アブキール湾における海戦で撃破し、ナポレオンはエジプトから撤退。イギリスは地中海の制海権を掌握した。

766



768



769



EGYPT

普通・特殊切手(DEFINITIVE · COMMEMORATIVE STAMPS)オスマン帝国 (Turkish Suzerainty) 宗主権の時代オスマン帝国デザイン

版式：平版 目打：12 $\frac{1}{2}$ 透かし：ピラミッドと星
1866 Janu. 1 July 16, 31 (No.4)

この当時、エジプトはオスマン帝国の支配下にあり、総督がおかれていた。切手は、5代目の総督イスマイール（1863年～1876年）時代に発行され、宗主国のオスマン帝国の切手に似たデザインで、中央にアラビア語でミスル（エジプト）と記し、周りにエジプト切手であることの表示および改定額面が加刷されている。



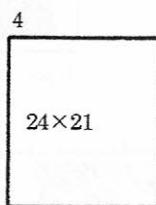
1 5pa. 緑灰



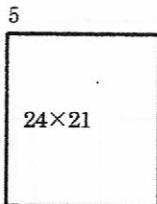
2 10pa. 茶



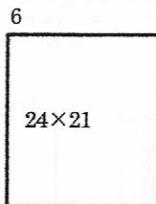
3 20pa 青.



4 2pi 黄



5 5pi 淡紅



6 10pi 灰青



7 1pi 紅淡紫

EGYPT

スフィンクスとピラミッド・1879-93型

图案：スフィンクスとピラミッド

版式：凸版 目打：14×31/2

紙：普通紙、チョウキ紙 透かし：なし



5pa

茶



10pa

紫



10pa 淡紅赤('81)



10pa

灰('82)



10pa

緑('84)



20pa

群青



20pa

薄紅('84)



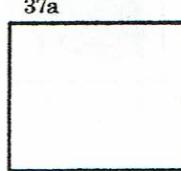
1pi

薄紅



1pi

群青('84)



チョウキ紙



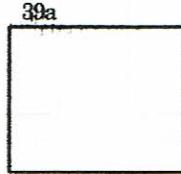
2pi

橙黄



2pi

橙茶



チョウキ紙



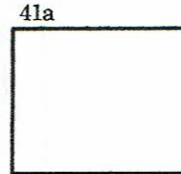
5pi

緑



5pi

灰('84)



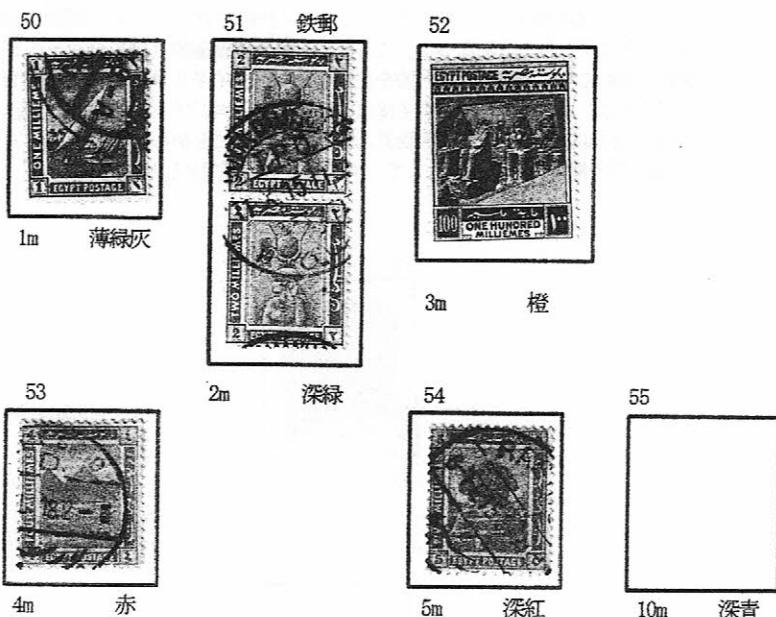
チョウキ紙

EGYPT

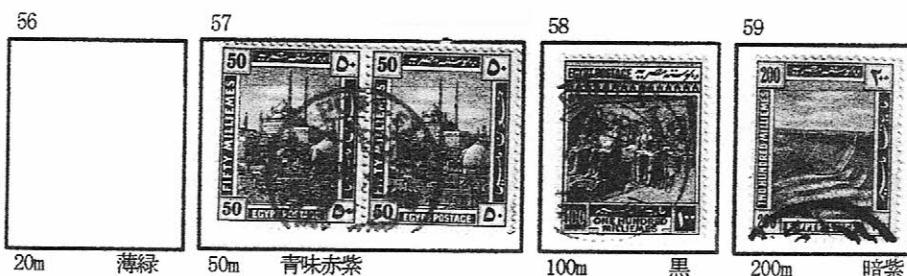
名所・旧跡・観光地

図案：ナイル川のヨット(No.50) クレオパトラ像(No.51)
 ラセルティン宮殿(No.52) ギザのピラミッド(No.53)
 スフィンクス(No.54) テーブの巨像(No.55)
 コンス神の礼拝所とカルナック塔門(No.56)
 カイロ城(No.57) アブシンベル宮殿(No.58)
 アスワンドム(No.59)

紙：Chalky 紙 目打：14×13½ 透かし：三日月と星
 1914. 2. 8



目打：14



EGYPT

イギリス保護領の時代料額加刷

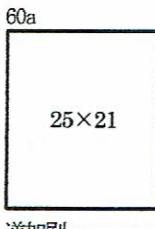
(台切手 : 52 加刷色 : 黒)

1915. Oct. 15

1870年代エジプトは経済の柱であった綿花が暴落し、さらにそれまで進めてきた近代化、欧化政策の影響もあって巨額の負債を負っていた。スエズ運河の株式をイギリスに売却（イギリスのスエズ運河支配）するなどの対策も及ばずエジプトは財政破綻し、イギリス、フランスの内政干渉、オスマン帝国の支配強化などに苦しむことになった。このため、民族主義運動（1881年ウラーピー運動）が起こり、一時成功し内閣を発足させたが、イギリスにより鎮圧された。イギリスは、オスマン帝国の宗主権はそのままに、エジプトを実質的に支配下に置き、さらに1914年、第一次世界大戦が勃発したことから、スエズ運河（1869年完成）等の権益を守るためにとして、エジプトを保護国とした。



2m 橙



逆加刷